

清田区新聞

2022年
5月15日号

日本共産党
札幌豊平・清田・南
地区委員会
豊平区豊平3条12-1-12
TEL 831-1909
FAX 831-3329

市政相談・生活相談は
吉岡弘子議員事務所へ
清田区北野5条3丁目1-4
電話 807-8171
FAX 807-8172

紙議員、いわぶち・はたやま候補がささい競争

「戦争か平和か」の進路を問う参院選の公示まで50日余りと迫った4月30日、紙智子参議院議員、いわぶち友比例候補（参議院議員）、はたやま和也選挙区候補（元衆議院議員）の3人がそろって札幌駅前街頭から訴えました。

ダッシュ！「命も9条も守り抜く」

参院選
6月22日公示予定
7月10日投開票予定



紙議員は「太平洋戦争の痛苦から二度と戦争はしないと誓って平和憲法が生まれませんでした。命も9条も守り抜く。参院選勝利に奮闘します」と強調。いわぶち比例候補は「日本共産党は7月で創立100年。侵略戦争に命がけで

反対をつらぬいてきました。憲法を生かした平和外交を進める日本をつくりたい」と力を込め、はたやま候補は「国民の安心のため、積極的提案や行動をするのが日本共産党です」と訴えました。

いわぶち、はたやま両候補は中央区の「女性のつどい」に参加。ウクライナ情勢や自衛隊問題、消費税を含む経済対策で議論を交わしました。グループに分かれたつどいでは、共産党の「はてなリーフ」などを活用して交流が深まり、参院選での共産党の躍進を誓い合いました。



女性のつどいで訴える、はたやま候補と、いわぶち候補（右）=4月30日、中央区

「オリパラ・大雪・地下鉄延伸」吉岡市議が秋元市政を一刀両断

第1回定例会市議会の焦点を吉岡ひろ子市議がズバリ解説する市政報告会が4月29日、清田後援会の主催で開催され9人が参加しました。



清田後援会の報告会=29日

吉岡市議は、3月30日までの予算議会まで、共産党市議団が予算の組み替え動議を提出したことに触れ「秋元市長の提案に対して削減と拡充の動議を出した。



市政を解説する吉岡市議

削減では市民合意のない大型開発事業、不要不急の事業を中心に、都心アクセス道路や北海道新幹線関係費、中心部の民間再開発、冬季オリパラ招致費の他、マイナンバーに関わる歳出、学校統廃合に関する取得費をあげた。拡充ではPCR検査体制予算、市民や子育て応援、除排雪予算の確保などを求めたが、

秋元オール与党の反対で否決されました」と厳しく批判しました。参加者からは、今冬の大雪災害に伴う地下鉄の清田延伸、PCR検査が自己責任に任せられている現状への不満の声が出ました。吉岡市議は「区民の声を拾いあげて、来年の市議選の政策を練り上げてゆきたい」と語りました。

憲法施行75年。「9条は平和を築く世界の宝」

今回のウクライナ問題は、私達に「平和を守るためには何か当に大切なことは何か？」という問いかけを改めて問いかけた▼国連憲章は「武力による威嚇・脅し」と「武力の行使」を明確に禁じ、日本の憲法9条は、この国連

憲章の上に、さらに戦争のための「戦力」を持たないことを明示して、世界平和の先頭に立つ決意を述べている。この精神を守り生かす国際社会を築くことが肝要▼ASEAN（東南アジア諸国連合）は「紛争の平和的な解決」を義務付けた友好協力条約を結び、「平和の枠組み」に守られた地域を実現した▼いま日本がやるべきことは、ASEANと協力してこの「平和の枠組み」を東アジア全域に広げる平和外交に取り組むことです。（秀）

「チェルノブイリ原発事故の時に、避難してきた子どもたちを受け入れたことがありません。ウクライナのニュースを見るたびに、もう大人になったあの子どもたちが、たまたかの最前線にいるかと思うと心配でなりません。つどいに参加された女性の言葉です。ロシアの攻撃を早く止められないのかと、もどかしく感じます。しかし、軍事で対抗すれば報復の悪循環。家庭や職場、地域、SNSなどで思いを形にしていくことは決して無駄ではないはず。私自身も思います。自民や維新などによる軍事力強化をとの主張は、外交の力を投げ捨てることにつながり

世論の高まりはウクライナやロシア国内にも届いていると確信しています。別のつどいで「防衛費倍増とか、今さら安倍元首相が出てきて何を言ってるのか」と語った方は「でも、そういう声が多数になるのではと心配になる」とも。マスコミが、このような発言を垂れ流している現状が危ないとの発言もありました。私もそう思います。自民や維新などによる軍事力強化をとの主張は、外交の力を投げ捨てることにつながり

子どもたちの笑顔を頭に浮かべ
日本共産党元衆議院議員
島山和也
hatayamakazu.com
www.facebook.com/kazu.hatayama.1
hatarogu.blogspot.jp

「ウポポイ」を訪問して思う

5月1日はメーデー。札幌駅前では93回北海道集会所が開かれ、3年ぶりに顔をそろえまし

た。会場に足を運べないケア労働者とはオンラインのライブ配信を行いました。



団結誓う参加者=1日、札幌

共産党の紙智子参議院議員と、はたやま和也道選挙区候補が登場。紙議員は「8時間働けば普通に暮らせる社会時給1500円を中小企業への支援とセットで実現しましょう」とスピーチし、会場の共感を呼びました。

「ウポポイ」を訪ねて思う 寄稿

いま和人がなすべきことは？

「平岡九条の会」は創立した時からアイヌの方々が和人に虐げられて来た歴史や文化に少なからず関心を持つ



慰霊施設を訪問=4月27日

20年「民族共生象徴空間・愛称ウポポイ」が出来て、「国立」のウポポイがどんなものか行ってみたいねと話していたところ、3月、まん延防止が解除、「今だ」と。ただ会員はみな高齢者、国の「ドーマンワリ」に乗っかる

色コンクリートの簡素な建物。そこには北大などが「調査」として盗掘した遺骨が納められていますが、虐げられてきたアイヌの方々の現在に複雑な思いを致しました。
地元観光協会の森悦子理事長の白老に元々あった観光土産物店の存続を求め続けてきた経緯や元民族博物館館長だった中村齋(いつき)さんのお話など、有意義な時間を過ごしました。
夕食後、いよいよウポポイ見学。見やすく美しく、アイヌ文化や民芸品など素晴らしい展示でした。しかし、アイヌ民族の今に至る歴史が果たしてこの説明で満足いくものかとの疑問は残りました。一度では見学しきれない豊富な展示で、再訪が必要と感じた次第。印象に残ったこと。中村さんのお話の中で、今、私たち和人がなすべきとは何か一國が謝罪すること。自分の先祖が虐げてきたなら、その子孫として謝罪すること。そして皆がアイヌの方々が虐げられてきた事実を知り、認めあうこと、だと思ふ。金を払うとか何か施設を作るとかではない」とおっしゃったことです。
「本当にそうだなあ」と納得でした。
(平岡九条の会 佐々木弘子)

白老ウポポイの旅

日本共産党札幌市議会議員

吉岡 弘子

www.yoshioka-hiroko.com



の磯の香りをわずかに感じながら、全員で黙祷を捧げました。立派な慰霊施設をつくっても、未だに北海道大学も日本政府も、正式な謝罪をしていないことを私たちは忘れてはなりません。

「ロシアも政権も許さない」3年ぶり「梅見会」&宣伝

清田区の日本共産党後援会は8日、3年ぶりに「梅見会」を行い、後援会員を含めて13人が参加しました。

梅見会に先立って、スパー前で宣伝。吉岡ひろ子市議は「ロシアでも軍事侵略反対の声が出ているが出口は見えない。岸田政権は国民の暮らしを犠牲にして軍事費拡大に際限がない。7月の参院選でキッパリ審判を」と訴えました

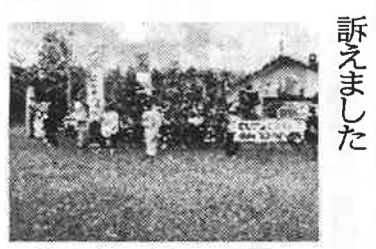


年金者組合大会=25日、真栄

最低保障年金制度の早期実現と暮らしを守る年金支給を求める請願署名などを訴え、仲間づくりを進めます。



吉岡市議を囲んで=8日



梅見客に宣伝=平岡

www.facebook.com/yoshioka51 yosiokahiroko.blogspot.jp



平岡九条の会から呼びかけられ、白老ウポポイツアーに参加しました。ツアーには、アイヌ問題研究家の荒木幸穂さんも参加されました。荒木さんは私が初めて挑戦した2007年札幌市議選の2ヶ月前に、主としてアイヌ墓地から遺

大変お (5月9日記)